



学校だより 8月号

石川小学校 学校教育目標
育てます。「石川魂」

令和2年7月31日
横浜市立石川小学校
校長 寺園 淳

想いが学校を創る

校長 寺園 淳

はじめに。令和2年7月豪雨により、各地の甚大な被害の様子が報道されていました。被災された皆様には心よりお見舞い申し上げます。ここ数年、記録的な大雨による被害が続いていることに、私たちが地球環境に及ぼす影響を改めて考える必要があるのではないのでしょうか。

横浜市立の小学校では7月1日より給食が開始され、通常授業となっています。しかしながら現在も様々な制約の中で学習を進めなければなりません。子どもたちが互いの考えを出し合い、学びを深めるグループ学習も子ども同士の距離を保ちながら行っています。体育の授業では、集団が密集しないように短距離走やハードル走などの陸上運動や体づくり運動等、個人で行う単元を先に学習するように工夫しています。また、本校の特色ある教育活動の一つである異学年交流も感染症対策から活動休止が続いています。本来ならば1年生と6年生が交流する中で、6年生は学校のリーダーとしての自覚を、1年生は学校の決まりを学んでいくのですが……。

このような制約がある中で、石川小学校ではとても素敵な取組がありました。それは「1年生を迎える会」の実施でした。この会は例年、4月に児童会が中心となって準備を進めていきます。4月からの臨時休校により児童会活動が行えないまま、学校再開から1か月が過ぎようとしている頃です。6年生の北島 妃奈乃さんと田中 陽菜美さんが校長室を訪ねてきました。1年生のために6年生が中心となって「1年生を迎える会」を計画し、実施したいので許可してほしいとのことでした。全校児童を集めることはできないことを伝えると、「方法は考えます。」と力強い返事が返ってきました。もちろん私は快諾をしました。

7月15日。テレビ放送による「1年生を迎える会」が始まりました。当日は6年生の高木 淳平さん、田中 陽菜美さん、松永 真希さん、安田 佳恵さんが中心となり会を進行しました。1年生に学校のことを知ってもらうために、各学年に学校クイズを作ってもらい、学年の代表の子どもが出題していました。テレビから流れる問題や正解を聞いたときに1年生の教室から歓声が響いていました。その声を聞いたときに代表の子どもたちはにこにこ笑顔を浮かべていました。そして、最後に1年生の教室から放送室に届く元気のよい「よろしくお願いします。」の言葉に、6年生はとても満足そうにしていました。私も思わず胸が熱くなりました。

この会は教師から指示されて実現したものではありません。子どもの想いからスタートしました。確かに毎年行われている会ですから、イメージはもつことができます。しかし今年は様々なことを自粛(がまん)しなければなりません。楽しみにしていたことをあきらめることが多くあります。そのような時だからこそ、子どもの想いが生かせる石川小学校を子どもと共に創っていきたくと考えます。保護者の皆様、地域の皆様、どうぞご理解・ご協力をお願いいたします。

